

論文テーマ

CN（カーボンニュートラル）の実現化に向けて（事例編）

論文の主旨

欧州の国々では、根底に“カーボン予算”という考え方があり、それは温室効果ガス排出総量には臨界点があるという立場に立脚している。その考えをもとに、CN（カーボンニュートラル）は語られる。既に目標が決まっておりそこから逆算するバックキャスティングの考え方である。一方、国内の製造業からは、改善の延長に答えがあるという考えからその意見が発せられることが多い。いわゆる改善型アプローチであり、フォアキャスティングの考え方に基づいている。環境に関してEUの国々と日本とでは、様々な面で違いがあるという現実がある。

今回は以下2つの“実践事例”を紹介する。

1つ目は、中堅製造業の事例である。製造業がCN実現化を目指すためにCO₂排出量算定及び計画立案、実施の活動を支援している。どのような考え方が活動により影響を与えるのか。今まで行ってきた活動とどのように結びつけたのか。施策群の効果で計画は本当に達成するのか。設計部門に環境配慮すべき視点は必要ではないのか。製造部門での従来の省エネ活動との接点はあるのか。などの疑問に答えるべく論じている。

2つ目は、ある企業グループに所属している中規模の開発型商社の事例である。国内数か所で事業活動をしている。今回の支援では自社ビルに絞ったCN診断・報告を行った。この企業は欧州で自社製品を販売している企業グループであり、またオーナー企業ということもありコストアップを伴う施策などに対しての意思決定は早いことが特徴である。

困難への挑戦であるCN実現化に対して、冒頭述べた考え方の違いも含めてあらかじめ他企業の状況を知ること、今後の組織としての準備やノウハウの蓄積につなげていただければと願っている。

発表者の紹介

氏 名 西 川 正

中産連 主任コンサルタント

専 門 分 野 経営・環境関連支援、省エネ診断、CN診断、CO₂削減コンサルティングなど

コンサルティング歴 製造業の経営計画策定などを中心にコンサルティングを実施している。その他に、CN実現化支援、SBT認証支援、省エネ、CO₂削減支援も行っている